

御坊寺内会館で臨地研修

今年度新規採用の教職員11人

御坊市教育委員会が行う
初任者研修で、令和元年度
から採用となった教職員11
人が、臨地研修として御坊



前に出て読み聞かせる初任者

寺内会館を訪れて学んだ。県教育委員会が実施している初任者研修のうち、初任者が配置された地域の特色、教育概要や課題などについて理解を深めるために各市町村教育委員会も行う。

御坊市教育委員会では今年度採用の教職員は小学校5人、中学校6人。奥幹夫市教育長の講話、指導主事から服務規程を学んだ後、岩内一号墳、北塩屋ハス池、市歴史民俗資料館などを訪れて、同会館を訪問。片山隆館長から、情報発信拠点として同会館が平成28年10月から開館したことや、テーマ別の特別展示等で来館者が増加しているこ

とをあげ、入館者が28日現在で7605人であることなど概要を聞いた。

この後、片山館長が「教職員をしていると急な対応も多いはず」と促し、和田勇物語の紙芝居をページ数を分けて初任者一人ひとりが前に出て、読み聞かせ。片山館長は「教室での授業も大事だが、夏休み期間中にでも地域の行事に顔を出したり、地域を知ること。それは親や子どもを知ることにつながる」と話した。藤田小で務める池本岳史さんは「知っていることも改めて学ぶ機会になったほか、知らないこともたくさんあり、教育の場で生かしたい」と話した。